



「NYシリーズ」NY現代美術館 (MOMA)



独自の視点でNYの街を描いた「NYシリーズ」セントラルパーク



「NYシリーズ」メトロポリタン美術館

「人種のサラダボール」と呼ばれる街、ニューヨーク。国籍、人種、そして肌や目の色も異なる様々な人々を描く日本人イラストレーターの羽方美穂子さん。

「皆をハッピーにさせる絵を描きたい」そう話す羽方さんにニューヨークの魅力や幸せの秘訣を尋ねた。

羽方美穂子

Mihoko HAKATA

イラストレーター

文・写真 / 及川 彩子

華やかさと繊細さ

「ハイビスカスのような女性」華やかでありつつも繊細さを持つハイビスカスの花言葉は、羽方さんを一言で表現するのにふさわしい。こぼれんばかりの笑顔、途切れることのないおしゃべり、別れのハグ：彼女は、自分に開くすべての人に対し、まるで旧知の友人のように接する。彼女と会った人は、穏やかな気持ちと共に、生きるエネルギーのようなものを見えない間に受け取っているはず。彼女はイラストの中だけではなく、出会った人すべてにハイビスカスの花の香りを少しずつ魔法のように振りかけ、ハッピーを共有している。そんな魅力あふれる女性だ。

会社を辞め、NYへ

大学で英米文学を専攻した羽方さんは、得意の英語を活かせる職場として外資系のコンピュータ会社に入社。マーケティング・コミュニケーション部門で海外との様々なビジネスを



NYのホームレスを温かい視線で描いた作品「Writing his dream」



「Precious Bag」

コーディネートする仕事に携わった。海外出張もこなすなど、順調なキャリアを積んでいた時に出会ったのが、永沢まことさんが教えるイラストの講座。羽方さんの父親は映画やテレビの撮影監督、母親が洋裁や油絵をしていたことから、クリエティブなことへの関心は幼い頃から高かったものの、本格的に習うのは初めてだった。ニューヨークに住んだことのある永沢さんの描くイラストと、ニューヨークに関する様々な言葉に強い影響を受け、「いつかニューヨークに住みたい」と考えるようになった羽方さん。しかし、「語学のためだけに行くのは身にならない」と考えた彼女は、ニューヨークでイラストを習える学校へ入ることを目標に準備を開始。一年半後にはニューヨークに渡り、アートの名門校、スクール・オブ・ビジュアル・アート(通称SVA)に入学した。

「後悔という言葉は、中学生の時に自分の辞書から外しちゃったの」と言うように、後悔したくないという気持ち

から、恐るべき早さで留学を実現した。

魅力的な街 ニューヨーク

「夢を持ってがんばっている人が沢山いるし、何かをやるというエネルギーであふれている街」

羽方さんはニューヨークをそう表現する。事実、ニューヨークには夢を追いかける努力する人が本当に大勢おり、互いに切磋琢磨し、励ましあっている。「仕事を辞めてイラストレーターになるためにニューヨークに来たの」と彼女が言える、「ステキね。がんばって!」、「グッドラック!」といった言葉をかけてくれる。それがニューヨークだ。

「日本にはない雰囲気が好き。みんなクレイジーなところも」

彼女の言う「日本にはない雰囲気」とは、知らない人同士が道端で挨拶したり、洋服を誉めあったりする、つまり「人間らしい会話」を楽しむ、ということだ。だが、そんな些細な願いも日本ではなかなか叶えられない。

「日本で知らない人に挨拶すると、おかしいと思われちゃうよね」とクラクラと笑うが、そんなニューヨークでの小さな「クレイジー」な出来事が彼女の心を幸せで満たし、その日ずっと温かな気分が溢れる秘訣になっているのだらう。

イラストでみんなをハッピーに

羽方さんのホームページのタイトル

「Relax & Feel Good (リラックス、そして心地よく)」だが、彼女は「皆をハッピーにさせる絵を描きたい」と話す。その言葉の通り、彼女のイラストはカラフルで、観る人を楽しませてくれるものばかりだ。ビジネススマンが通勤に使うグランドセントラル駅や、観光客のメッカとなりつつあるニューヨーク近代美術館 (MOMA)、いも立ち寄るベーカリーなど、自身のお気に入りの場所を、彼女独自の視点で切り取り、彼女にしか出せないタッチと色で仕上げた作品は、ジュエリーボックスのようにキラキラと輝いている。

イラストはカードとしても販売しているが、リサイクルペーパーやノントキシックインク(非毒性インク)を使用し、人にもそして環境にも「ハッピー」な作品を作っている。※作品はウェブサイトで購入可能

ハッピーの秘訣

「やりたい事があつたら書き出してみるのが一番」と言うように、羽方さんも留学の際には、何がしたいのか、何に不満があるのか、具体的に書き出してみたいと話す。自分のやりたい事をリストにし、さらに細かく分析していけば、必ずやりたい事に辿り着けると



羽方美穂子 (はかた・みほこ)

1975年1月1日生まれ。東京都出身。青山学院大学英米文学部卒業。外資系コンピュータ会社を経て、2001年12月に渡米し、スクール・オブ・ビジュアル・アート (SVA) 入学。「地球の歩き方・ニューヨーク (ダイヤモンドビッグ社)」や「英語耳&英語舌 (学研)」などのイラストも担当。ウェブサイトは www.mihokohakata.com

趣味：自己流ダンス
好きな映画：『アメリカ』人を幸せにしたっていう所が共通しているから。
ニューヨークのお気に入りの場所：コロンバスサークルにあるスーパーマーケット『ホールフーズ (Whole Foods)』が大好き。カラフルで、しかもオーガニックの野菜や果物がきれいに並べられていて、私にとっては「デイズニerland」みたいな場所。

も言う。
「諦める必要なんかないのに、諦めちゃう人がいるけど、もったいないよね」
新しい事を始める時人と違う事をする時には、何かと否定的な言葉を耳にする事もあるだらう。また普段の生活の中でも、ストレスや悩みは常につきまわっている。
「ネガティブ(否定的)な考えが浮かんだら、お腹から息をせーんぶ出して新鮮な空気を吸うようにしてる。そうすると悪い気が出ていく気がするから。それと元気がないときにはジャンプするのいいよ。血行も良くなるって言うしね。エレベーターの中でもよく飛んで(笑)」

及川彩子

在住ライター・翻訳家。大学院進学のため2000年に渡米。現在はスポーツ、女性のキャリア、海外生活などについて執筆。「意見・感想」は oyadi@360mail.com まで。